



築理会 会報

2016 Spring vol.57



トピックス・イベント

- * 卒業される皆様、卒業おめでとうございます。皆様は1部51期生です。
- * 1966年に卒業された1期生の皆様、今年は卒業50周年になります。
- * 初めての築理会・野田建築会の合同新年会が1月20日に開催されました。
- * 平成28年度築理会総会・講演会・懇親会は5月28日(土)に開催されます。

表紙写真：神楽坂校舎7号館前での真鍋恒博名誉教授と真鍋研卒業生。左より大栗育夫氏(1974卒)、真鍋先生、佐野吉彦氏(1979卒)。記事は4p、5p。なお、7号館は現在、数学科の研究室として使われている。

CONTENTS

- 2 P 51期卒業される皆様へ(2部37期)、関西建築会・土木のつどいに参加して、2016年1月 新年会
- 3 P 「先輩は語る」、OB・OGと学生との交流親睦会開催
- 4 P 「古希を迎えて」真鍋研究室OB会
- 5 P 佐野氏坊ちゃん賞、井口教授と#会、S研の会
- 6 P 同窓の輪 ー横浜市役所ー、ちくご会ゴルフコンペ開催報告
- 7 P 横塚 力氏(プロ初段)に聞きました、工学部建築学科「りぼん」10号目
- 8 P インフォメーション
平成28年度築理会総会・講演会・懇親会のご案内、大学より、新刊紹介、編集後記

51期卒業される皆様へ（2部37期）

今年（2016年）1部建築学科を卒業された皆様は、51期卒業生です。そして1966年に卒業された1期生の皆様は今年で卒業50周年になります。1期生の皆様は卒業してすでに半世紀がたちました。

昭和46年（1971年）に発行された最初の築理会名簿には6期生までの卒業生、わずか558名がのっているだけでした。現在は1・2部合わせると工学部建築学科の卒業生は7,500名を超えています。又、理科大卒以外の世間からみれば、理科大建築学科卒は工学部・理工学部の区別はしていません。従いまして建築学科の卒業生は14,000名を超えています。

新しく卒業された皆様、皆様にはこれだけの先輩・仲間がいます。1期の方は全く先輩のいない時に世の中に出て行かれました。当時は理科大に建築学科が有ると、言われていたことでしょう。それがいまや建築業界の中ではどこに行っても理科大卒業生がいます。これは今日、卒業される皆様には大きな財産ではないでしょうか。

本学大学院修士課程修了でノーベル賞をいただいた大村智先生が昨年のホームカミングデーの時の講演で「成功するためには、人との出会いを大事にすること」と言われていました。

これから世の中に出ていかれると人との出会いがたくさんあります。そこでの出会いのキッカケの一つは、同窓です。理科大建築科卒との人との出会いを大切にいただければと思います。

（大岩昭之：1968年 建築学科卒）

関西建築・土木のつどいに参加して

2015年11月5日（木）シティプラザ大阪で「東京理科大学：関西建築・土木のつどい」が催されました。今回で三回目となるこの会に、私的な立場と築理会会長の名代として、出席させていただきました。この会の特徴は築理会と違い理工学部を巻き込み、建築だけでなく土木も含み、建設の全体をくるんだ所が特徴です。30名の出席者を数え、会員はゼネコン・設計事務所を中心に建築・土木以外の学科の方もいらっしゃいます。



（シティプラザ大阪にてスピーチする三輪富成氏）

会は乾杯の後、築理会として会長の挨拶を代読させていただきました。その後全員が近況報告、とても楽しい話が続きました。

印象に残ったのは萩原嘉織さんのゴルフ話で、女子プロと対等に試合をされているとのこと、そこで会主催のゴルフコンペ開催が決まりました。和気藹々としたこの会が長く続くことを祈っております。

（三輪富成：1973年 建築学科卒）

2016年1月 新年会

去る1月20日（水）18時30分からPORTA 神楽坂6階の理窓会倶楽部で、初めての築理会・野田建築会の合同の新年会が開かれました。

当日は、来賓の理工学部学部長の北村春幸先生他9名の先生方、同窓は61名の衆が集い大いに盛り上がりました。

最年少の中口裕太君（H21理工学部卒）は、「沢山のOB・OGと交流ができ大変有意義な時間が過ごせた」と興奮気味に感想を述べていました。

又、昨年発足した築理会女子部会のメンバー7名も会場を大いに盛り上げ女子力のパワーを見せ付けられたしだいです。ちなみに現役学生のうち3割程が女子で教室の前列に陣取って熱心に学業に励んでいるそうです。



後輩を指導されている卒業生の先生方

来年も合同開催を確認し、最後に全員で校歌を斉唱し、記念撮影を行い、盛会のうちに幕を閉じました。

（乙丸勝範：1972年 建築学科卒）

先輩は語る

OB・OG と学生との交流懇親会開催

11月22日(日)葛飾キャンパスでOB・OGと学生との交流懇親会が開催されました。今年からPart1(交流会)では安達功氏(1986卒)の司会により、6人のパネリストによるスピーチ、皆さんパワーポイントを使われて仕事の内容などを話されていました。

Part2では、場所を隣の部屋に移しOB・OGと学生、教員による懇親会、ここにはOB・OGは先ほどのパネリストも含め25人の出席がありました。先生方も主任の長井先生はじめ6人、学生は40人で、あちらこちらに輪ができ学生も先輩たちを取り囲んでいました。なおOBの人たち15名は、二次会で金町駅北口から4分ぐらいの「ときわ食堂」で懇親を深めました。



「これからの建築設備に求められること」

五味弘 (1979年卒, 1981院) 高砂熱学工業(株)
技術本部副本部長 空気調和衛生工学会副会長



空気設備会社の研究開発業務に長年携わって来た経験を基に、建築設備の動向と課題を説明しました。低炭素化と快適を両立する建物と空調システム、IoT (Internet of Things) の活用事例、BIM (Building Information Modeling) の現状と可能性、それらの技術の統合による新たなビジネスモデルへの発展の可能性を概術し、将来を担う学生の皆さんへの期待を述べました。

「海外で働く」

古藤武彦 (1995年卒, 1997院) 鹿島建設(株)
エンジニアリング本部 施設計画グループ次長



総合建設会社(ゼネコン)の意匠設計者として経験した、7年間のタイ赴任期間の話題を中心に、海外で働く上でのポイントを説明しました。建設会社の設計業務の概要、海外赴任に至る経過とキャリア、海外での設計プロジェクトの進め方のコツや2011年洪水時の経験を話した後、帰国後に携わっているエンジニアリング業務について紹介しました。

総合建設会社(ゼネコン)の意匠設計者として経験した、7年間のタイ赴任期間の話題を中心に、海外で働く上でのポイントを説明しました。建設会社の設計業務の概要、海外赴任に至る経過とキャリア、海外での設計プロジェクトの進め方のコツや2011年洪水時の経験を話した後、帰国後に携わっているエンジニアリング業務について紹介しました。

「横浜市の建築・都市整備の取組」

坂和伸賢 (1982年卒) 横浜市役所 建築局長

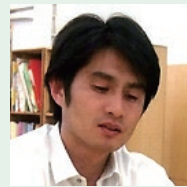


横浜市役所で建築職として、住宅施策、環境政策、都市整備や地域街づくりを担当してきました。日本最大の基礎自治体の建築職の業務紹介を通して、私なりの職業観や想いを話したいと思います。実は、大学時代は、ヨット部での長期合宿や友人との交流を最優先してきたため、極めて学業成績は低迷していて、こうした場で話すのは大変恐縮しています。

「建築の可能性」

山本力矢 (2000年卒, 2002 横浜国大院)

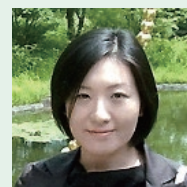
SANAA パートナー



建築の設計をするということは、建築家のやりたいものを実現するだけのものでもないし、施主の要望をそのまま実現するだけのものでもない。幸運にも多くの素晴らしい施主に巡り会ってこれたということにもよるが、対話を繰り返し、お互いに全く予想していなかった建物になっていくところに面白みがあり、そこに建築の可能性があると思う。

「転職、子育てをしながら」

深野有紀 (2000年卒, 2002院) 森ビル(株) 広報室



理科大学大学院修了後、日経BP社入社し雑誌記者として勤めた後、森ビルに転職。以来、広報の仕事をしています。二人の息子の母としての経験も生かし、社内でも「女性が働きやすい街づくり」を追求しています。少子高齢化や女性活用が進む中、社会は自由で新しい発想を求めています。ぜひ女性や若い方にも、どんどん新しい道を切り開いて活躍して欲しいと思います。

「施工管理の現場(1年目～4年目)」

折口皓祐 (II部 2010年卒, 2012院) 清水建設(株)
豊洲新市場(仮称) 建設工事



建築施工管理職の業務内容は「工事の計画、QCDSの管理」と説明を受けるとは思いますが、ただ計画や管理などと言われても「具体的には何をやるのか？」イメージが持てない方も多いと思います。私の4年間の業務をお伝えし、少しでも皆様の就職活動のお役に立てればと思います。

築理会に新しく特別会員制度がありますが、真鍋恒博名誉教授は築理会特別会員になられています。

古希を迎えて

名誉教授 真鍋恒博

昨年9月に満70歳を迎えました。昭和48年に27歳で着任して以来39年の専任扱の在職年数は、本学科では最長です。この間にいろいろなことをして来ましたが、特に構法計画教育は他大学にない充実した内容を誇るものでした。約530名に及ぶ研究室のメンバーは、様々な活動のエネルギー源となってくれました。研究室以外にも、海外建築視察や部活動顧問などで多くの学生諸君と親密に付き合う機会に恵まれ、教員生活はさらに充実しました。

長く勤めれば研究・教育以外の面でもいろいろな職務を担わねばなりません、そのおかげで他学科や事務組織など多くの方々とも親交を深める機会を得ました。葛飾移転問題ではあまり楽しくない思いもしましたが、今となれば貴重な体験です。

30年近く続けている自転車通勤は、葛飾移転後は往復回数も減って年間1000km達成がやっとの状態ですが、当面の目標は生涯で地球一周ぶんを走ることです。山スキーは学生時代から続けていますが、一人で行くのは不可能なので、現職時代にメンバーに加わってくれた仲間があつてこそと感謝しております。

非常勤教授として教壇に立つのも残り5年となりましたが、まだまだ元気に人生を楽しみたいと思いますので今後ともよろしく願います次第です。



山スキー 月山2014年

真鍋先生の古希を祝う会・OB会開催



似顔絵ケーキ

去る9月12日(土)、理窓会倶楽部談話室にて、2015年の真鍋研究室OB会が開催されました。今年のOB会は、真鍋恒博先生の古希祝いを兼ねて特別企画での開催となりました。当日は、73名の方にご参加いただき、談話室は満員御礼状態。8期の坂本研さんの軽快な司会でスタートし、70歳とは思えないお若いままの真鍋先生のご挨拶が終わると、古希のお祝いとして、似顔絵ケーキが登場！OBの近況報告の後、真鍋先生のご講和でOB一同、笑いと懐かしさでいっぱいになりました。16期の高橋伸子さんから花束を、38期の山崎杏奈さんから記念品として古希にちなんだ紫色の登山ジャケットを贈呈の後、恒例の記念撮影会となり、真鍋先生およびOBの皆様の御協力で、盛会のうちに無事閉会となりました。

(深野有紀 2000年卒)

真鍋研1期生の思い出

大栗育夫(1974年卒) 長谷工コーポレーション会長
「僕は君達に研究の仕方を教えてあげるよ。」という言葉で私は真鍋研究室に決めました。44年前、新しい先生が東大から来て研究室を持つらしいという話でガイダンスを聞きに行った時でした。そして卒業研究だけでなく、兄貴と弟のような関係でいろんな事を教えていただきました。夏合宿、サッカー大会、各種飲み会、研究の中身は忘れましたが。遊んだことはしっかり覚えています。神楽坂の周辺は随分と変わりましたが、私達一期生は、今でも年に1~2回は飲んだり、ゴルフをしたりして遠い昔を懐かしんでいます。



いい暮らしを、創る。
住まいのオンリーワングループ

株式会社 長谷工 コーポレーション

代表取締役会長 大栗 育夫

〒105-8507 東京都港区芝二丁目32番1号
TEL: (03) 3456-5451 (代表)
<http://www.haseko.co.jp>



佐野氏坊ちゃん賞

佐野吉彦氏（1979年卒）が理窓会「平成27年度坊っちゃん賞」を受賞されました。佐野氏への坊っちゃん賞業績対象は「我国における建築界の基盤づくりへの貢献と築理会（後輩）への多大なる尽力」です。佐野氏はご存知のように（株）安井建築設計事務所の取締役社長として建築・設計業界において活躍されています。又、築理会に対しては、築理会名簿の発行への貢献、そして学生（院生）主導で編集発行している卒業制作の作品集「りぼん」にも、大いに尽力をつくされています。



ところで今回の第18回「坊っちゃん賞」授賞式は、理窓会新年茶話会で行われ、ノーベル賞受賞大村智先生の顕彰もありました。その会場で、佐野氏と大村先生のお二人並んで撮らせていただきました。なお大村先生は第2回「坊っちゃん賞」を受賞されています。（大岩昭之 1968年卒）
追記：佐野氏にAIA（アメリカ建築家協会）の名誉会員（2016年度）の称号が授与されました。（詳細次号）

井口教授と#会

今年私は還暦を迎える。井口研究室での思い出の日々を、今でも時折眺めてみる。ロマンスグレーでダンディーな井口先生への憧れも、この研究室を選択した理由の一つだ。女性には採らないとの噂に愕然とし、父に先生の説得を頼んだことを懐かしく思い出す。

井口研究室OB会は#（シャープ）会と呼ばれる。第1期生の古株から働きざかりの若人まで、30～40名の教え子達が理窓会倶楽部に集う。先生を囲んでの近況報告や思い出話は、私達をつかの間の学生へと時を戻す。2011年には、恵比寿の洒落たレストランで50名を超える卒業生が先生の喜寿をお祝いした。2015年11月28日の#会、御年83歳になられた今も、先生のその素敵な雰囲気は昔と全く変わらない。お声も話し方もそして仕草も、私の思い出の中の「井口教授」のまま、それが何よりも嬉しい。

人間誰しも年をとる。けれども、#会で先生や懐かしい面々とビール片手に他愛のない会話を楽しむ・・・そんな時間から明日へのエネルギーを得て、先生のように美しく年を重ねられたらと望むこの頃である。

（先崎玲子 1979年卒）



S研の会

毎年恒例「S研の会（鈴木研究室の同窓会）」が2015年10月31日に開催されました。



今年で8回目になる「S研の会」は鈴木研究室の同窓会なのですが、コンテンツは鈴木先生の1年間の研究成果と卒業生各自の課題や成果の発表会です。

マンネリ化しないように毎年新たな幹事が会をプログラムします。次回幹事は32期の虎尾さんが引き受けてくれます。



もう一つの「S研の会」の楽しみは二次会です。先生のワイン好きもあってワインを中心にしたパーティーです。グルメ志向の食材選びも幹事の大事な役目です。この会は卒業してからも鈴木先生のユニークでしなやかな思考に接することができるとても貴重な時間に思えます。自然に対峙するのではなく、どうしたら近づけるか、なぜ感動するのかという建築に最も重要なテーマを問い続けている姿勢に毎年新たなエネルギーをもらっています。他の研究室の方の参加も大歓迎です。

（宇佐美潔 1974年卒）

回転貫入鋼管杭 シー・エクス・パイル

G-ECS PILE®

OB多数、求めるニューフェイス。

昭和48年工学部建築学科 代表取締役 三輪 富成 専務取締役 小川ひろし

基礎杭に、 新たな価値を創造する。

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町4-3 国際箱崎ビル3F
TEL 03-3639-5226 FAX 03-3639-8162

北海道営業所：Tel.011-252-2556	中部営業所：Tel.052-203-8551
東北営業所：Tel.022-217-8105	西日本支店：Tel.06-6233-7300
新潟営業所：Tel.025-242-2180	中四国出張所：Tel.082-568-1310
北陸出張所：Tel.076-231-0750	九州営業所：Tel.092-433-5833
東日本支店：Tel.048-813-6612	沖縄営業所：Tel.098-860-3700
茨城営業所：Tel.0296-70-5015	
千葉出張所：Tel.043-302-7080	
神奈川出張所：Tel.045-263-1625	

株式会社 **三 誠**
SANSEI INC.

横浜市は、現在では、人口が約 372 万人、面積は約 435 km² の日本最大の基礎自治体です。1859 年に開港し、市政が施行された 1889 年には人口が約 12 万人、面積が約 5km² でした。その後、市域を拡大する中で、関東大震災、太平洋戦争での横浜大空襲や米軍による接收により大きな被害を受けましたが、横浜市 6 大事業※により、現在の横浜市の骨格を築き上げました。

この 6 大事業※は、相互関連性のある都市施設の整備をしていく中で、従来のタテ割から内部のヨコの連携をよくしながら実施していくことを手法の基本としており、行政内部のあり方も変革していくものでした。
 ※①【都心部強化事業】(みなとみらい 21 など主要地区の再開発) ②【金沢地先埋立事業】(中心市街地の工場の移転先と勤務する住宅の確保) ③【港北ニュータウン建設事業】(スプロール防止、市民参加の都市づくり) ④【高速鉄道建設事業】(地下鉄整備) ⑤【高速道路網建設事業】 ⑥【横浜港ベイブリッジ建設事業】

横浜市役所建築局の特徴

現在の横浜市でも、この思想は引き継がれており、特に建築局では、理科大 OB の建築局長を筆頭に、「市民の幸福度を高める」ことを基本目標とし、局一丸となって、チーム力を発揮することとしています。その言葉の通り、「気楽に真面目な話ができる」風通しのよい職場風土を醸成しており、建築局未来プロジェクトを立ち上げ、職員が日頃感じている局内横断的な課題を、局全体で共有・議論し、解決策・方向性を見出しています。

OB・OG 交流会



今から数年前、現在の建築局長が「気楽に真面目な話ができる」職場づくりの一環として、理科大 OB・OG 会の開催を提案しました。開催にあたって、事務局を私が務めたのですが、調べたところ、平成の初め頃まで、新人歓迎会を兼ねて OB・OG 会が行われていたことが分かり、当時の名簿の存在も判明しました。そこから、人づてに建築職の理科大出身者を探し出したところ、理工学部も含めると 50 人近くもの人が理科大出身者であり、建築局以外の 13 区局で幅広く活躍していることが分かりました。

同じ同窓生であることから話も進み、今まで仕事で関わったことのない人とも知り合いになり、その後も、これをきっかけに、気軽に相談ができるようになりました。現在では総勢 55 人おり OB・OG の懇親とともに、新入職員の歓迎会を行い、つながりを深めています。最後に、母校の発展を願いつつ、今後は横浜市だけに留まらず、母校との交流をきっかけに、幅広い関係を深めていきたいと思います。

(葛西晴喜：2001 年 建築学科卒)

第 25 回ちくご会ゴルフコンペ開催報告



平成 27 年 11 月 26 日(木)利根パークゴルフ場にて第 25 回ちくご会ゴルフコンペが 3 組(10 人)で開催されました。当日は生憎の雨模様で開催が危ぶれましたが、幹事の榎本氏の驚異的な粘りと「雨はあがります」という恫喝的な勧めにより約 40 分遅れて開始されました。出だしの 5 ホールまでは雨は止むどころではなく、風も強くなり手はかじかみ、誰かリタイヤはないかと心配になりましたが午前中後半で雨も上がり、昼食時には全員で無事なことも確認でき何よりでした。

優勝；今野(4 期) 2 位；乙丸(6 期) 3 位；榎本(4 期) という結果でした。今後は女性も含めたもっと多くの方に参加していただきたいと思います。よろしく願いいたします。

(今野義忠：1969 年 建築学科卒)

※次回は、平成 28 年 4 月 6 日(水)利根パークゴルフ場での開催となります。

横塚 力氏（プロ初段）に聞きました



左：横塚力さん 右：渡辺

理科大建築学科で初めてのプロ棋士となられた工学部II部建築学科3年横塚さんにホームカミングデー「囲碁と憩いの広場」にてインタビューを行いました。

Q 囲碁を始めてからプロになるまでの経緯は？

3才くらいの時、父親から囲碁を勧められ、教えてもらいました。中学1年の時、日本棋院の院生になる審査があり、それに受かって院生になりました。高校2年で院生を卒業しました。その後、理科系特に建築に興味があったこと、日本棋院が市ヶ谷にあり神楽坂の大学から近いので、理科大への入学を決めました。昼間は棋院に通い碁を打ち、夜は大学の授業に出て環境の実験などを行っています。平成26年11月に初めてプロの初段にチャレンジし、平成27年4月に初段に合格しました。

Q お好きなプロ棋士の方はいますか？

井山祐太さんです。形勢が不利な場面でも最後まで諦めずに打ち続け最後には勝つというしぶいところが好きです。

Q ネット碁などはやっておられますか？

やっています。中国や韓国の強い人、また、アマの有段者などと打ったりしています。またネットで日本棋院の「幽玄の間」というサイトでは、プロ高段者の碁も見ることができます。

Q 将来進まれる道のことをお聞かせください？

将来は上をめざして碁の世界でやっていきたいと思っています。

プロになる為には計りしれない厳しい試練があるようです。今後も上を目指して碁の世界でやっていきたいと語る横塚さん。一流棋士になれるよう応援しています。頑張ってください。

(渡辺一男：1972年卒)

工学部 建築学科 作品集「りぼん」10号目

2015りぼん 第10号目の代表を務めさせて頂きました 修士1年の山岸杏奈です。

不慣れな点多々ありましたが、築理会のOB・OGの皆様、協賛して下さった企業の皆様、学課



りぼん10号編集委員

の諸先生方、先輩・後輩方、編集委員の皆様のおかげで今年もなかなか読みごたえのある作品集になったのではないかと思います。

(りぼん委員会 2015 山岸杏奈, 2015年卒)

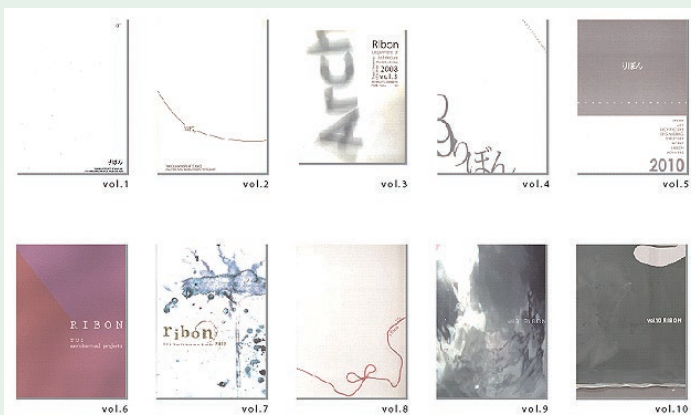
りぼん10周年おめでとうございます

2006年、工学部は神楽坂から九段へ移転する年でした。その頃周囲の大学でも新たに卒業制作集や展示の活動をはじめていて、そんな中「仲間内での理科大の本を作ろう」の一言からりぼんの制作がはじまりました。当時は全くゼロからのスタートで、先生・先輩方にアドバイスをいただきながら、約半年をかけて発行に至りました。りぼんは先輩後輩や他大学とのつながりをつくとともに、長く継続するという企画でスタートしました。そこで、学年ごとに自由に個性のある作品集とできるように書式も内容も緩く後輩へ引き継ぐことにしていました。

すると翌年から年々新しく進歩化されていく様子を見て、コンセプトがうまく引き継ぐことができたと感じています。りぼんがそんなつながりをつくりながら10年成長できたことで、広く周知されたのではないかと思います。これからもりぼんがより幅広い関係づくりのきっかけとなり、新たな10年に向けてますます個性的に進展させてもらえればと思っています。

(りぼん委員会 2006 坂巻直哉, 2000年卒)

りぼんのあゆみ No.1～10



平成 28 年度築理会総会・講演会・懇親会のご案内

日時：平成 28 年 5 月 28 日（土）

総会：14:30～15:10

講演会：15:20～16:40

懇親会：17:00～19:00

会場 総会・講演会：森戸記念館地下フォーラム
（神楽坂 4-2-2）

懇親会：PORTA 神楽坂 6F・理窓会倶楽部

講演：秋山仁先生 「建築とデザインの背後に潜む数理」



会費：4,000 円（本年度築理会費未納の方は+ 3,500 円）

出欠：振込用紙又 FAX、メール

FAX：03-5876-1614

Mai：chikurikai@gmail.com

平成 28 年度会費納入のお願い

現在、平成 28 年度の会費の納入をお願いしております。

同封の振込用紙にて、お振り込み下さい。

今後のさらなる築理会発展のため、多くの方のご協力をお願いします。

年会費 3,500 円

加入者名 築理会

口座番号 郵便局 00110 - 5 - 171952

築理会のホームページをご覧ください

築理会－東京理科大学工学部建築学科同窓会ホームページ

<http://www.chikurikai.org/>

築理会会報のバックナンバー、改正した築理会会則、イベントの詳細情報などをご覧ください。

インフォメーション

大学より

*本年度（平成 28 年）より、工学部二部建築学科の授業もすべて葛飾キャンパスで行われます。

1 期生 50 周年記念同期会開催

*半世紀を経て、各々の人生を語り合しましょう。

9/14（水）12:00～ ザ・キャピタルホテル東急（永田町）

（岩倉・奥野・野々村・福島・保坂・三松）

新刊紹介

野田正治著『飛鳥の暗号』

出版社：鳥影社（2016 年 2 月）

定価：1,800 円（税別）

*飛鳥京の主な古墳の被葬者や仏教寺院の建立者を解明し、『日本書紀』の謎を解く。

野田正治（1970 年卒）



訃報

堀池秀人氏

1975 年武井研卒の堀池秀人氏が 2015 年 6 月 65 歳でご逝去されました。氏は理科大卒業後東大大学院博士課程を経て個人事務所堀池秀人都市・建築研究所堀池英人アトリエを主宰、UCLA の大学院客員講師、熊本大学教授など歴任され 2005 年には共同で日本建築家協会賞を受賞されました。前夫人の南 美希子さんは、元、テレビ朝日のアナウンサーで、昨年 11 月の対談番組「徹子の部屋」に出演され、堀池さんの事を語られていました。ご冥福をお祈りします。



編集後記

IS テロ、中東紛争、原油安、中国景気減退、水爆、SMAP 解散などが、同時、同列に報道される変化の年となりました。日本の建設業界も 4 年後のオリンピックとその後に向けて着実に準備が始まっています。築理会新会員の皆さんには目前の新生活だけでなく将来の活躍に向けて着実な努力をしてください。

築理会会報は、今後とも多くの方々に楽しんでいただけるよう新会員の皆さん、先輩、先生や現役学生の話を取り上げていきます。情報提供にご協力をよろしくお願いいたします。（近藤 剛啓）

編集長：渡辺 一男

編集委員：近藤 剛啓、天神 良久、大岩 昭之、福田 義克、石神 一郎、野田 正治、河合 康夫、飯山 道久、荒井 眞一郎、安達 功、森 清、三浦 博範、栢木 まどか

誌面構成：天神 良久、林 利也

誌面デザイン：himeyo tokuzawa